

歴史と街づくり活動の経緯

鳥取市鹿野町では「鹿野祭りの似合うまち」をテーマに、行政と住民が協働で景観まちづくりに取り組んできた。行政の取り組みに呼応して、平成13年10月地域づくり目指して活動組織「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」が地元有志により発足した。

町並みを活かして藍染め暖簾や屋号瓦など軒下演出。「いんしゅう鹿野盆踊り」、「虚無僧行脚」など賑わいイベントの開催。空き家になった古民家を活用して拠点施設「ゆめ本陣」や食事処「夢こみち」を整備・運営を行っている。フォーラム等の開催も行っており特に「まちづくり合宿」では、全国の街づくりを学び、鹿野の課題を確認し、ゲストと共に鹿野の街づくりの在り方を考える機会としている。学んだ事を糧に、新たなプロジェクトも始まり、街並みや地域文化を活かした活動を継続している。

いんしゅう鹿野まちづくり協議会ではこれまでの活動により、地域の人々に信頼と可能性を感じさせる存在となってきており、空き家活用等の情報をいち早く掴む事が可能である。また「ゆめ本陣」や「夢こみち」等の運営により、手作り小物販売や食事処、カフェや絵画教室などコミュニティービジネスに繋がる活動を行ってきた。また明治大学留学生の日本体験プログラムの受入れや、鳥取県景観まちづくりフォーラムの企画運営等も行っている。

少しずつ空き家活用も進み賑わいも復活しているが、雇用の場の減少はそれよりはるかに進んでおり、現状を回避したいと考えている。私達はまちづくりの活動により地域活性化を進めてきたこれまでの経験を活かして、地域における雇用の機会と商業的賑わいを創出し、子供達や若者が住み続けたいと思う環境づくりを行いたいと考えている。



鹿野祭り



ゆめ本陣



いんしゅう鹿野盆踊り



虚無僧行脚

鹿野のまちづくりが進む中で感じられるのは、地域の人々の一体感である。祭りを大切に想い、祭りに似合う街を作ろうとの思いをしっかりと共有している事である。盆踊りや虚無僧行脚などの開催においても、祭りに使われる提灯や藍染め暖簾による演出を住民が率先して行っている。行政・住民・NPO法人が一緒になって祭りの似合う街づくりを推進し、喜びと感じている。

街づくりが進み、京格子の町屋や白壁に腰板張りの屋敷など往時の風情がさらによみがえり、鹿野に郷愁を感じると言われて来訪される方も増加している。しかし一方で少子高齢化により、独居老人や転出者が目立ち始め、それに伴って、空き家・空き地が点在するようになってきている。街づくりに取組みにより来訪者の増加している今、空き家・空き地の活用を進め、まちなみを守り活かして、さらなる賑わいと新たな地域文化を作り出す事が求められている。

私達はまちづくりの活動により地域活性化を進めてきたこれまでの経験を活かして、地域における雇用の機会と商業的賑わいを創出し、子供達や若者が住み続けたいと思う環境づくりを行いたいと考えている。